



エコアクション21 環境経営レポート

2022年度
(2022年1月～2022年12月)

発行日 2023年2月13日
改訂日 2023年7月18日



目 次

| | 頁 |
|---|---|
| 1. 組織の概要 | 1 |
| 2. 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日 | 1 |
| 3. 環境方針 | 2 |
| 4. 実施体制 | 3 |
| 5. 環境目標 | 4 |
| 5.1 中期環境目標 | 4 |
| 6. 環境活動計画及びその実績と評価結果、次年度の 取組内容 | 5 |
| 6.1 運用結果と評価 | 5 |
| 6.2 次年度の取組内容 | 6 |
| 7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の 結果並びに違反、訴訟等の有無 | 7 |
| 7.1 環境関連法規等の遵守状況 | 7 |
| 7.2 違反、訴訟等の有無 | 7 |
| 8. 代表者による全体評価と見直しの結果 | 7 |
| 8.1 全体評価 | 7 |
| 8.2 見直し結果 | 7 |

1. 組織の概要

(1) 名称及び代表者名

株式会社 丸武部品

代表取締役社長 池間 健二

(2) 所在地

本社 静岡県磐田市前野2770

磐田第2工場 静岡県磐田市刑部島262-2

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 管理部部長 磯部 辰彦

担当者 管理部顧問 伊藤 昇

連絡先 TEL:0538-35-6617 FAX:0538-37-0892

(4) 事業内容

中、小物プレス部品加工/溶接加工/スポット溶接加工/切削加工

設立 昭和37年8月

資本金 1,000万円

URL <http://www.marutake-b.com>

(5) 事業の規模

製品出荷額 16.1億円(2022年)

| | 本社 | 磐田第2工場 | 合計 |
|-------|-------|--------|------|
| 従業員 | 107名 | 7名 | 114名 |
| 延べ床面積 | 6020㎡ | 797㎡ | |

(6) 事業年度 1月～12月

2. 対象範囲(認証・登録範囲)、レポートの対象期間及び発行日

(1) 対象範囲:本社工場および磐田第2工場の全組織及び活動

(2) レポートの対象期間及び発行日: 表紙に記載

(3) 二酸化炭素排出係数の単位表記に誤記(P.4～6)があり 2023/7/18改訂
[誤] kg-CO2kWh ⇒ [正] kg-CO2/kWh

3. 環境方針



環 境 方 針

株式会社丸武部品は、輸送用機器、産業用機器の部品及び金型の製造業として、一連の事業活動が環境に与える影響を明確に把握し、評価しその維持と改善を積極的に推進することにより、地球環境の保全に貢献致します。

上記活動の一環として

- 1) 環境経営システムの維持と継続的改善を図ります。
- 2) 環境に関する法規制・条例を遵守し、環境汚染の予防に努めます。
- 3) 技術的、経済的に可能な範囲で環境目標を定めて、全社員が積極的に活動します。

次の事項を重点項目とし活動を展開します

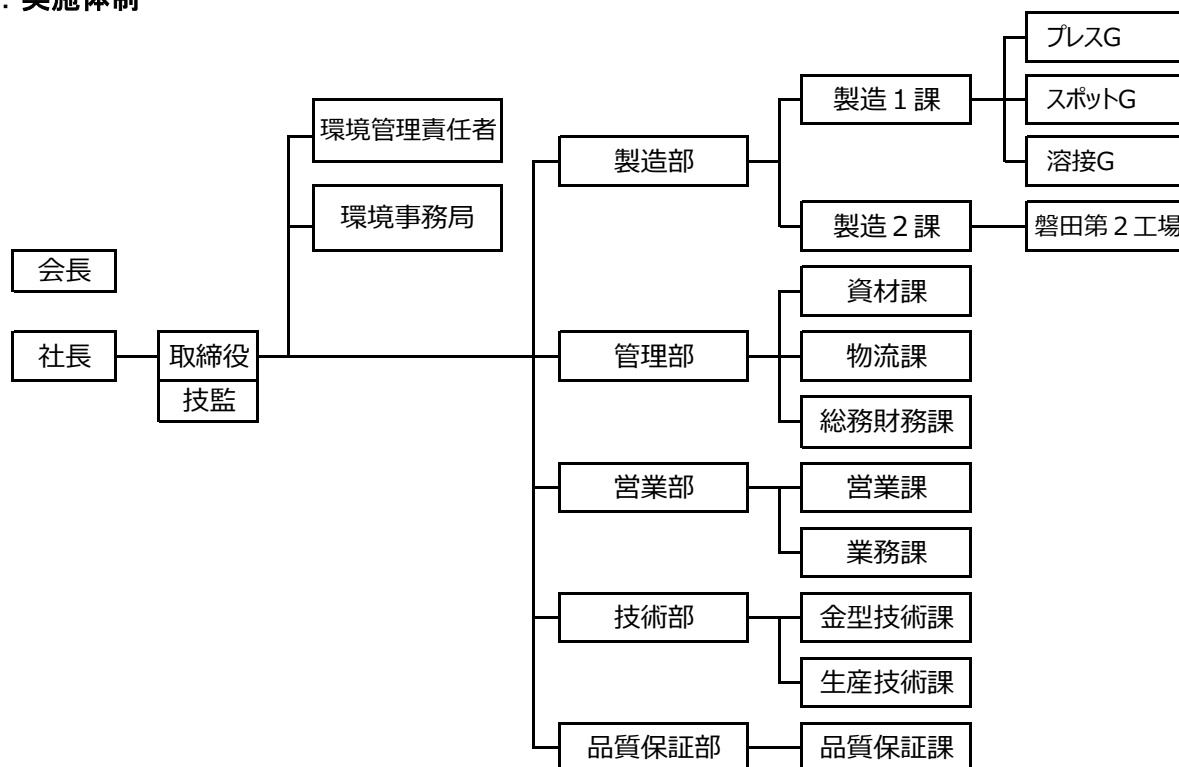
- 1) 省エネルギーに取り組み、二酸化炭素排出量の削減に努めます。
- 2) 廃棄物の削減とリサイクルの推進に努めます。
- 3) 水資源の節水に努めます。
- 4) グリーン購入を推進します。
- 5) 環境に配慮したものづくりに努めます。
- 6) 化学物質の適正管理に努めます。
- 7) 品質改善活動と連動した省資源、省エネルギーに取り組みます。

この方針は全ての社員への周知徹底を図るとともに、外部からの要求に応じて一般の方々にも開示致します。

2016年2月1日
株式会社 丸武部品
代表取締役社長

池間 健二

4. 実施体制



| 職名 | 役割・責任・権限 |
|--------------------------|--|
| 代表者(社長) | <ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの組織体制の決定と経営資源の配分 ・環境方針の作成 ・環境管理責任者の指名 ・代表者による全体の評価と見直しの実施 |
| 環境管理責任者 | <ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表の確認 ・環境目標・環境活動計画の確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境活動レポートの確認 |
| 環境事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐、事務局として取組を推進 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施(2年目以降) ・環境関連法規等取りまとめ表の作成と遵守評価の実施(2年目以降) ・環境目標・環境活動計画書の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境活動レポートの作成 |
| 部門長 | <ul style="list-style-type: none"> ・自部門における環境経営システムの実施 ・自部門の社員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施 |
| 全社員 | <ul style="list-style-type: none"> ・環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加 |
| 公害防止管理者・騒音 公害防止管理者・振動 | <ul style="list-style-type: none"> ・騒音・振動施設の配置の改善、点検、操作の改善 ・騒音・振動を防止するための施設の操作、点検及び補修 |
| 防火管理者 | <ul style="list-style-type: none"> ・消防用設備の点検整備や消防訓練の実施その他の防火管理上必要な業務を行う |

5. 環境目標
5.1 中長期環境目標

※前年度を基準年度として直近3か年の環境目標を立案し、活動を行う事を基本としますが、項目により当年度実績が翌年の基準年度として相応しくない場合は、過去の年度実績を基準年度とします。(◇)
また、基準年度実績に異常値があった場合は、見直しを入れた目標として活動を行います。(◆)

| | | 2019or21年度基準← | | | | →2022年度基準 | | |
|---------------|----------------------------------|-----------------------|--|-----------------|-----------------|-----------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 項目 | 単位 二酸化炭素排出 係数kg-Co2/kWh | 基準[実績] | | | 中長期目標 | | | |
| | | 2019年度 1~12月 | 2021年度 1~12月 | 2022年度 1~12月 | 2022年度 1~12月 | 2023年度 1~12月 | 2024年度 1~12月 | |
| | | 0.527 | 0.527 | 0.527 | 0.527 | 0.459 | 0.459 | |
| 二酸化炭素排出量削減 | 電力の削減 | | | | | | | |
| | 削減率(前年比) | % | 基準 | 基準 | 0.5% | 0.5% | 0.5% | |
| | 電力使用量 | kWh | 807,669 | 851,819 | 762,378 | 847,560 | 758,566 | 754,773 |
| | Co2総排出 | Kg-Co2 | 425,642 | 448,909 | 401,773 | 446,664 | 348,182 | 346,441 |
| | 自動車燃料の削減 | | | | | | | |
| | 削減率(前年比) | % | 基準 | 基準 | 0.5% | 0.5% | 0.5% | |
| | ガソリン | ℓ | 7,680 | 7,680 | 3,831 | 7,642 | 3,812 | 3,793 |
| | 軽油 | ℓ | 1,080 | 1,080 | 890 | 1,075 | 886 | 881 |
| | Co2総排出 | Kg-Co2 | 20,604 | 20,604 | 11,183 | 20,501 | 11,127 | 11,071 |
| 廃棄物排出量削減 | 一般廃棄物の削減 | | | | | | | |
| | 削減率(前年比) | % | 基準 | 基準 | 0.5%(◇) | 0.5% | 0.5% | |
| | 排出量 | Kg | 3,730 | 5,550 | 3,710 | 3,711 | 3,691 | 3,673 |
| | 不燃物(廃プラ)の削減 | | | | | | | |
| | 削減率(前年比) | % | 基準 | 基準 | 0.5%(◇) | 0.5% | 0.5% | |
| | 排出量 | Kg | 5,775 | 7,875 | 4,900 | 5,746 | 4,876 | 4,851 |
| 排水量削減 | 水道水の削減 | | 上期に漏水がありましたが、その異常値を含んだ実績の基準値 ↓では相応しくないため、除いた期間の平均値を基準とする。 | | | | | |
| | 削減率(前年比) | % | 基準 | 基準 | 0.5%(◆) | 0.5% | 0.5% | |
| | 水使用量 | m ³ | 886 | 1,056 | 1,022 | 1,051 | 1,017 | 1,012 |
| 環境配慮 資材購入 | グリーン購入 | % 新規購入品の グリーン比率 | | | | 新規購入品 は環境対応 商品を購入 する 55% | 新規購入品 は環境対応 商品を購入 する 55% | 新規購入品 は環境対応 商品を購入 する 55% |
| 環境配慮 ものづくり | 環境に配慮したものづくり | % | | | | 100% | 100% | 100% |
| 物化学 | 化学物質の適正管理 客先使用定義に従い、含有負荷物質を遵守 | | | | | 100% 遵守 | 100% 遵守 | 100% 遵守 |

(※)電気使用量の二酸化炭素排出係数は、2022年度実績までは 0.527kg-CO2/kWh(令和2年度実績)とし、2023年度目標においては、0.459kg-CO2/kWh(令和3年度実績)としております。

(◇)2022年の全目標は本来であれば前年2021年実績の0.5%削減とすべきところですが、2021年には明確な理由によって基準値として相応しくない項目がありますので、その項目については2019年実績を基準とします。(2020年実績は新型コロナの影響でさらに相応しくありません)

(※)当年2023年度以降の目標は、前年2022年度実績を基準年度とします。

6. 環境活動計画及びその実績、評価結果
 6.1 運用結果と評価（取組期間：2022年1月～12月）

※二酸化炭素排出係数は、0.527kg-CO2/kWh(令和2年度実績)としております。 評価 ○：目標達成、X：目標未達

| 項目 | 単位 | 基準 | 目標 | 実績 | 削減率 | 評価 | |
|------------|----------------------------------|------------------------------|--------------------|-----------------------|---------------------------------|-------|---|
| | | 2019 or 2021 [◇'19、◆'21訂] | 2022.1～ 2022.12 | 2022.1～ 2022.12 | (目標比) % | | |
| 二酸化炭素排出量削減 | 電力の削減 | Kg-Co2 | 448,909 | 446,664 | 401,773 | 10.1% | ○ |
| | 電力使用量 | kWh | 851,819 | 847,560 | 762,378 | | |
| | 自動車燃料の削減 | Kg-Co2 | 20,604 | 20,501 | 11,228 | 45.2% | ○ |
| | ガソリン | ℓ | 7,680 | 7,642 | 3,831 | | |
| | 軽油 | ℓ | 1,080 | 1,075 | 890 | | |
| 廃棄物排出量削減 | 一般廃棄物の削減 | Kg | 3,730 (◇) | 3,711 | 3,710 | 0.0% | ○ |
| | 不燃物(廃プラ)の削減 | Kg | 5,775 (◇) | 5,746 | 4,900 | 14.7% | ○ |
| 排水量削減 | 水道水の削減 | m ³ | 1,056 (◆) | 1,051 | 1,022 | 2.7% | ○ |
| 資材環境購入 | グリーン購入 | | | 新規購入品は環境対応商品を購入する 55% | 新規購入品の11点中、9点は環境対応商品 [実績:81.8%] | | ○ |
| も環境配慮 | 環境に配慮したものづくり | | | 100% | 100% | | ○ |
| 物化学 | 化学物質の適正管理 客先使用定義に従い、含有負荷物質を遵守 | | | 100%遵守 | 100% | | ○ |

当社の主な環境活動の具体的な取組内容を以下に示す。

電力の削減

- 品質改善活動(QMS)と連動した工程内不良低減
- 照明等、電気使用器具の消し忘れ点検
- 生産工程の待機時間(段取・作業改善)
- 空調温度の適正化(冷房26℃ 暖房22℃)

自動車燃料の削減

- 品質改善活動(QMS)と連動した工程内不良低減
- ロス配送削減、最適ルート配送
- エコドライブの推進
- 出張時などの公共交通機関利用の推進

一般廃棄物の削減

- 分別の徹底
- 両面、集約等の機能を活用した印刷・コピー
- リサイクル推進
- 帳票見直しによる印刷物の削減
- 裏紙の活用

不燃物(廃プラ)の削減

- 分別(素材別)の徹底
- 梱包材の再利用

水道水の削減

- 節水を励行
- 水道メーターの月次確認による漏水点検

グリーン購入

- 環境対応商品への切替え推進

環境に配慮したものづくり

- 環境に配慮したものづくり(原材料)の推進
- 環境に配慮したものづくり(梱包材)の推進

化学物質の適正管理

- 化学物質の調査

6.2 次年度の取組内容

2023年、環境目標と活動計画（取組期間：2023年1月～2023年12月）

| 環境目標 | 目標達成手段 | 目標 | 単位 | -----> 計画 | | | | -----> 実績 |
|------------|---|------------|----------------|------------|------------|-------------|--------------|-----------|
| | | | | 1Q 1～3月 | 2Q 4～6月 | 3Q 7～10月 | 4Q 11～12月 | |
| 二酸化炭素排出量削減 | 電力の削減 品質改善活動(QMS)と連動した工程内不良低減 生産工程の待機時間低減(設備・段取・作業) 照明、電気使用器具の消忘れ点検 空調温度の適正化(冷房26℃ 暖房22℃) | 348,182 | Kg - Co2 | → | | | | → |
| | 電力使用量 | 758,566 | kWh | | | | | |
| | 自動車燃料の削減 ロス配送削減、最適ルート配送 エコドライブの推進 公共交通機関利用の推進 | 11,127 | Kg - Co2 | → | | | | → |
| | ガソリン | 3,812 | ℓ | | | | | |
| | 軽油 | 886 | ℓ | | | | | |
| 廃棄物排出量削減 | 一般廃棄物の削減 分別の徹底 帳票見直しによる印刷物の削減 両面、集約等の機能を活用した印刷・コピー 裏紙の活用 リサイクル推進 | 3,691 | Kg | → | | | | → |
| | 不燃物(廃プラ)の削減 分別(素材別)の徹底 梱包材の再利用 | 4,876 | Kg | → | | | | → |
| 排水量削減 | 水道水の削減 節水を励行 水道管からの漏水定期点検(水道メーター確認) | 1,017 | m ³ | → | | | | → |
| 資環境購入配慮 | グリーン購入 グリーン購入を励行 新規購入品は環境対応商品を購入する | 55% | % | → | | | | → |
| も環境配慮 | 環境に配慮したものづくり 環境に配慮したものづくり(原材料)の推進 環境に配慮したものづくり(梱包材)の推進 | 100% | % | → | | | | → |
| 化学物質の適正管理 | 化学物質の調査 客先使用定義に従い、含有負荷物質を遵守 | 100% 遵守 | % | → | | | | → |

(※) 電気使用量の二酸化炭素排出係数は、0.459kg-CO2/kWh(令和3年度環境省実績公表値：鈴与電力)としております。

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

7.1 環境関連法規等の遵守状況

当社に適用される主な環境関連法規等

- ・工場立地法
- ・振動規制法
- ・騒音規制法
- ・消防法
- ・フロン排出抑制法
- ・水質汚濁防止法
- ・浄化槽法
- ・廃棄物処理法
- ・家電リサイクル法
- ・自動車リサイクル法

* 環境関連法規等の遵守状況を2022年5月13日にチェックし、結果問題が無いことを確認しました。

7.2 違反、訴訟等の有無

関係当局・近隣住民からの違反の指摘・苦情等は過去3年間ありません。

- * 外部から指摘・苦情等があった場合は、随時「外部コミュニケーション記録」を残す。
- * 年度内に記載する該当事項が無かった場合も、その旨の「外部コミュニケーション記録」を1枚残す。

8. 代表者による全体評価と見直しの結果

8.1 全体評価

「カーボンニュートラル」の話題が業界内、客先との会話で出て当たり前の状態になってきています。世論から自動車業界が強くEV化を求められているかのような報道がありますが、車両用バッテリー供給の問題、電力供給の問題、充電インフラの問題、など多くの課題が山積するなかで、冷静に業界の動向を見極める必要があると考えています。我々中小製造業にできることは、いかに省エネルギーな工場運営を進めるか、に限られると考えています。このカーボンニュートラル推進の動きが、新たなビジネスの動きになりつつあるのは確かであり、それに対応する、客先で商品開発がある場合は、受注に繋がるよう営業努力を進めたいと考えています。

丸武部品のSDGs宣言:(再掲載)「製品作りを通じて持続可能な社会の実現を目指す」

当社は、創業以来、輸送機器メーカー様への高品質な製品の供給を通じて、世界中のユーザーの豊かな生活と安全な移動手段を実現すべく事業活動を進めて参りました。

一方、これまでISO14001やエコアクション21の活動を通じて環境対応への活動を進め、工場・各工程の環境改善にも気を配り、働き易さの配慮への活動により、2019年より政府主宰の日本健康会議から健康経営優良法人の認定も受けております。

また地域に対して、会社周辺の環境整備を始め、浜松いわた信用金庫様が推進する花のリレープロジェクトアダプト活動に参画。遠州森駅の草刈奉仕にて地域貢献を進めています。

私達には自社ブランドの製品はありませんが、毎日製造し納入している製品のの一つ一つが、世界中で活躍し役立っていることに誇りを持っています。私達は今後もクリーンな事業活動を推進していくことで、持続可能な社会の実現に向け、SDGsに取り組んで参ります。

8.2 見直し結果

1) SDGs、カーボンニュートラルの推進

- ・SDGs、カーボンニュートラルの活動を企業の負担と思うことなく、チャンスと捉える必要がある。持続的に省エネルギーな工場運営を進めて工場ランニングコストを削減することはもちろんですが、この活動が新たなビジネスに繋がるのが理想であり、その観点と思想をもって活動して行くことが重要である。